

---

# 瞼におりた天使

青羽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

瞼におりた天使

### 【Nコード】

N7920K

### 【作者名】

青羽

### 【あらすじ】

好野圭。

誰もが振り返るほどの美貌を持つ男子高校生。

しかし好野には謎が多く、彼の本当の姿を見る者がいなかった。

彼の右目。彼の声。

病室でひとり過ごしてきた彼に、話しかけた和砂。

好野圭は何者なのか。和砂は知リたかった。

そしてその日から始まる不思議な毎日に、気付く術などなかった。

## ヨシノケイ

誰もが彼を振り返り見た。長いまつげ、高く綺麗な鼻筋、薄く淡いピンクの唇。整いすぎた彼の容姿は、男女関係なく虜にした。

ある日私の同級生が彼に告白をしたらしい。彼女は勇気を振り絞り、震える唇を必死に動かした。しかし彼は何も言わず彼女の前から去っていった。

「眼帯とマスクをしていたから、ちゃんとした表情はよくわからなかったけれど、彼つて、怖い」

涙目で訴える彼女に見向きもせず、背後にいた彼、好野圭よしのけいは教室から出て行った。

蝉が五月蠅い季節になり、水泳部員の姿が目に入った。

「みんなお疲れ。差し入れ持ってきたよ」

補修を終えた私は、マネージャーをしている友人と共に飲み物を買いに行っていた。

「大会近いから忙しくて。ごめんね付き合わせちゃって」

「平気平気。あと帰るだけだから暇だったし」

エイコと一緒にお茶を飲んだ後、私は水泳部の部室から出て行き、自宅に帰ろうと校門を出た。

ふとプールに目を向ければ、綺麗な顔立ちをした男子生徒が水泳部員を見つめていた。

好野圭だった。

真夏にもかかわらず、長袖で見つめていた。汗一つかくことなく大きな片眼で部活動を見つめていた。そんな彼を見て奇妙に感じた私は、思わずその場で足が固まってしまった。不思議な雰囲気に取り込まれたように、私は彼を見つめていた。

噂によると、右目の眼帯は一度もはずしたことがないという。女子生徒が彼に取ってくれと頼んでも、一切無視で外そうとしなかった。無口な彼にとうとう嫌気がさしたのか、高校入学当時に比べて、

二年生になった今、好野のまわりに集まる女子生徒は少なくなった。普段から毎日登校することがない好野は、病弱でどうのこうのと担任が言っていたのを思い出す。病院で過ごすことが多く、彼は昔から友人もいないらしい。

去年同じクラスだった私は、久しぶりに私服での好野を見てそのことを思い出した。

彼の素顔を見た者は一人もない。

ただそれだけが、私の知っている好野だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7920k/>

---

瞼におりた天使

2010年10月12日00時50分発行